

携帯型 NDVI 測定機による水稻幼穂形成期の 簡易栄養診断値および窒素吸収量の推定

【概要】

「ひとめぼれ」及び「銀河のしずく」では、6月下旬～幼穂形成期に携帯型 NDVI 測定機（株式会社ニコン・トリンプル グリーンシーカー、グリーンシーカー2）を利用して簡易栄養診断値及び窒素吸収量の推定が可能です。

1 測定方法

測定機（右写真）下面のセンサー部分を水稻から60cm上方に離してトリガーを引き、高さを維持しながら作物の真上を条に沿って10株分移動（7～10秒間）して行います。



2 簡易栄養診断値(草丈×茎数×SPAD)×10⁻⁶および窒素吸収量の推定

下図の回帰式から推定します。簡易栄養診断値×10⁻⁶の推定では推定値±0.2～0.3、窒素吸収量では推定値±1.11～1.65g/m²程度のずれ（誤差）が見込まれること、土壌条件等によって関係式のパラメータが変わる可能性があることに留意します。

【試験データ等】

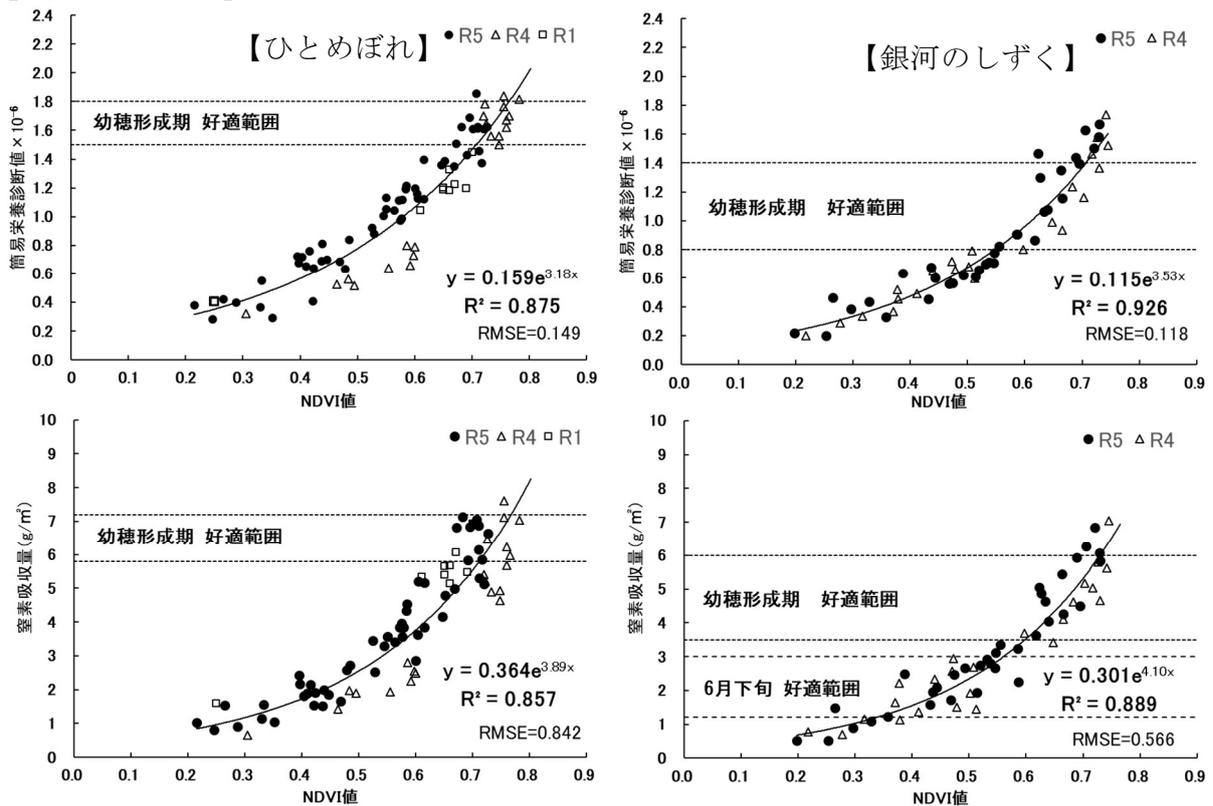


図 6月下旬～幼穂形成期における NDVI 値と簡易栄養診断値の関係

※1 ひとめぼれ n=82 銀河のしずく n=59

※2 図中の点線で示した好適範囲は、県の栄養診断基準に基づく

【令和5年度成果】携帯型 NDVI 測定機による水稻幼穂形成期の簡易栄養診断値及び窒素吸収量の推定 (R5-指-08)